

令和4年度 五島市立玉之浦小中学校 学校経営方針

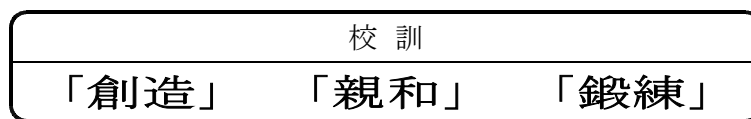
校長 西村 隆

1 はじめに

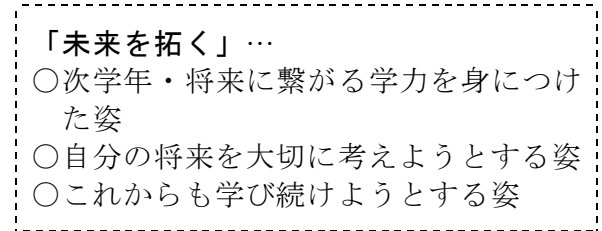
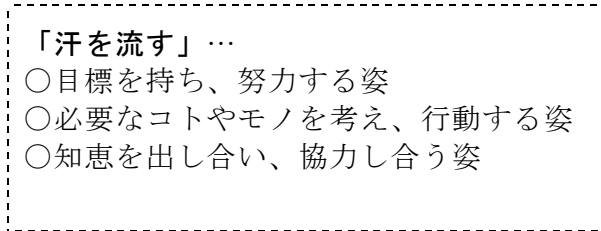
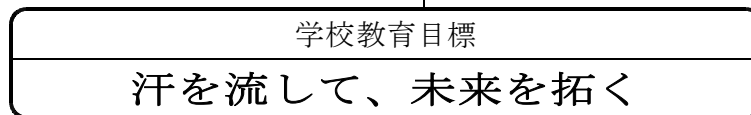
教育基本法・長崎県教育方針・五島市教育方針に則り、人間尊重の精神を基盤にし、地域の願いや児童生徒の実態を踏まえ、地域・保護者・教職員の一致協力のもと知・徳・体のバランスのとれた心身共に逞しい人間性豊かな児童生徒の育成に努める。

二つの小学校の統合と、中学校との併設から4年目になる。「小中学生が互いに学び合える」という視点から、あらゆる取組を模索し、本校学校教育の強みへと発展させていくことを目指したい。また、昨年度に引き続き、学校教育活動へのコロナ禍の影響は避けられない状況である。子どもたちの安全を最優先に、その時々状況に合わせて対応を判断し、可能な教育活動を行っていく。

2 校訓



3 学校教育目標 (R3年度変更)



めざす児童像	めざす生徒像
<ul style="list-style-type: none"> ○よく考え、進んで学ぶ児童 【知】 ○いつも仲良く、思いやりのある児童 【徳】 ○こころも体も粘り強い児童 【体】 	<ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ喜びを感じる生徒 【知】 ○互いに認め合う生徒 【徳】 ○心身ともに健全な生徒 【体】
めざす学校像	めざす教師像
<ul style="list-style-type: none"> ○将来を見据え、知性を磨き合う学校【創造】 ○互いを認め合い、故郷を誇りに思う教育活動が展開される学校【親和】 ○生涯にわたって健康を保持増進する基礎・習慣をつくる学校【鍛練】 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己研鑽に励み、内省を通して指導力向上に努める教師 ○一人ひとりの子どもと向き合う教師(集団) ○健康で明るく目標達成に向けて協働する教師(集団)

4 身につけさせたい資質・能力

育成したい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ○相手意識や目的意識をもち、自分の考えを深め、適切に表現できる力 ○友達の考えや教師の説明を聞き、正しく理解する力と活用できる技能 ○友達の考えを受け入れ、自分の考えを高めようとする意欲 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考力、判断力、表現力】 【知識・技能】 【学びに向かう力、人間性】

5 学校経営の基本理念

『誰もが幸せになるために生まれてきた。』…学校は、ここにいることで幸せを感じ、未来を幸せに生きていくために必要なことを学ぶ場である。そして、私たちの指導の基本は「ひとり一人に寄り添うこと」にある。そのために私たち教員は…

(1) 学校の役割を共有する

- ①学力の保障 …未来を託す社会の宝ものである子どもたちに、自身の未来を拓く力となる学力を保障する。
- ②社会性の育成 …集団生活を通して、自他を認め、人とのつながりの中で自ら動く（汗を流す）ことができる力を身につけさせる。

(2) 指導・支援の心構えを共有する

- ①ひとり一人、みんな違う
同じ性でも、兄弟姉妹でも、ひとり一人が独立した人格であることを忘れず、指導・支援に当たる。（男子は力が強いから…。お姉ちゃんはできてたのに…などはない）
- ②指導姿勢の基本
自分は大人だとおご 驕ることなく、
たかが子どもとあなた 侮ることなく、
その子のためにとひる 怯むことなく…
- ③無知の知（知らざることを知る）
教職員も、子どもも、時々立ち止まって、謙虚な気持ちで「無知の知」のフィルタに自分を通すことで新しい一步を踏み出すことができる。

(3) 具体的な事項

- ①未来ある子どもたちの生きる（生きぬく）力の育成のために、学校・家庭（保護者）・地域と協力しながら教育活動に取り組む。
- ②小中併設校としての強み活かした学校づくりに努める。（児童生徒が互いに学ぶ場づくり）
- ③取組の先（苦労の先、学びの先…）にある光（目的、目標、育成したい資質・能力など）を子どもと共有する。子どもと共に汗を流し、子どもの姿（変容）を通して取組の評価を行う。併せて、子どものよいところ、伸びたところを褒める。
- ④職員の協働体制のもと、「報」「連」「相」を密にして、全児童生徒を全小中職員で見守り、気づき、指導・支援する。子どもたちの頑張りや成長を共有し、褒めることで伸ばす。
- ⑤授業、個別指導、家庭学習（含タブレットPCの活用）等を充実させ、知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力の向上に努める。
- ⑥各取組や行事のねらい、目標やその内容は、対象の子どもによって変わるべきものであり、単に踏襲するのではなく、改善する視点を忘れないようにする。
- ⑦地域に出かけ、地域を呼び込む。また、教育活動に関わる情報を積極的に発信し、開かれた学校づくりに努める。
- ⑧学校に行くのが楽しいと感じさせる環境を整える。（互いの違いを認め合う集団→社会性の育成→学習環境）
- ⑨一人ひとりの教師は個性のある形や大きさの異なる石である。一枚岩になるのは至難の業だが、個性が繋がれば強い石垣となることを信じる。（協議では多様な意見を出し合い、実践では全員が同じ方向性で指導する。）
- ⑩授業公開（研究授業）や各種研修会への参加を通して、授業力の向上に努める。
- ⑪業務の効率化と協働性を図り、長時間勤務を避け、健康維持に努めるとともに、働きやすい職場環境をつくる。

6 重点努力事項 ※人事評価票（業績評価）との関連 ※項目1＝人事評価票の「項目」

項目 1	項目 2	具体的な行動目標と実践事項の例
① 教育課程・ 学習指導	○基礎・基本の定着と 学力向上	○学ぶ意欲を高め（学びたい・学ぶことは楽しい）、未来を拓く学力をつけさせる。 ・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくり ・子どもが「分かった、身についたと実感」できる授業づくり ・小単元末等、短いスパンでの習熟・定着状況の確認 ・理解の状況に応じた個別指導 ・小中間での連携の推進（教科の内容の系統の意識や、小中間で子どもの学びを繋ぐ学習 など）
	○家庭学習による基礎 基本の定着と深化	○家庭学習の習慣を身につけさせる。 ・適切な量と質の課題 ・励ましのコメント（褒める・認める・アドバイスなど） ・家庭との連携（保護者への啓発） ・タブレットPCの活用
② 生 徒 指 導	○学級経営	○児童生徒一人一人に寄り添った学級づくりを進める。 ・学級目標と具体的な方策を持った学級経営 ・子どもと子ども、子どもと担任、担任と保護者の信頼関係の構築 ・子どもの変化に気づく教師（複数の目で観察し、情報交換に努める。）
	○道徳教育・人権教育 の推進	○相手の気持ちを理解し、思いやりのある言動で、笑顔あふれる学校・学級をつくる。 ・互いの違いを認め合う（ジェンダーに悩む子どもがいるという認識。子どもの呼称は「○○さん」） ・日々の生活の中での人権・平和教育の指導
	○特別活動の活性化	○自分の役割に責任を持ち、積極的に行動させる。また、小中学生が一緒に互いに学ぶ活動づくりを模索する。 ・委員会や係活動での責任ある行動 ・生徒会活動の活性化（リーダー育成） ・行事の継承
	○生活指導・生徒指導 の充実	○「時を守り、場を清め、礼を正す」を習慣づける。 ・さわやかな挨拶 ・時間を守り、余裕を持った行動 ・美しい環境づくり（施設が古いことと汚いこととは別） ・「きまり」を守る（子ども達が理解できる理由があるか）
	○キャリア教育の充実	○学ぶ意義や働く意義、より良く生きることについて考えさせる。 ・夢、憧れ、志を育むキャリア教育 ・進路の実現に向けた学力保障 ・キャリアパスポートの活用

② 生徒 指導	○体力向上および部活動指導	○進んで体を鍛え、体力を着けさせる。(体力向上は、多くの活動を支える基礎的な力になる) ・走運動の推奨(基礎体力の増進) ・効率的、効果的な部活動指導
	○健康生活と保健指導	○健康と安全に心がけて行動できる子どもを育成する。 ※コロナ禍に対応した衛生管理と指導に努める。 ・衛生習慣の定着 ・安全な給食の提供 ・行事や学級活動、給食時間における食育指導 ・季節に合った衣服の着用
	○学びを広げる指導	○できるだけ本物に触れ、活字に親しむ活動を仕組む。 ・演奏会や演劇など、本物に触れる機会をつくる ・読書活動 ・作品(俳句・短歌・詩など)の創作
③ 学 校 運 営	○校務分掌	○使命感と協働精神を大事にした分掌業務に努める。 ・協力・協働で円滑な業務遂行 ・管理職や関わりのある担当との連絡や相談
	○家庭や地域との連携	○教育活動や情報を発信し、開かれた学校づくりに努める。 ・保護者との積極的な対応(「教育は今日行く」…スピードが求められる事案、複数職員間での対応と情報共有) ・学級通信・各種通信・学校だより・ホームページなどでの積極的な情報発信 ・PTAおよび地域との相互連携
	○教育環境の整備	○環境づくりを通して学校教育を推進をする。 ・掲示教育(掲示板の有効活用や、背面黒板や掲示物の正しい表現を大切にす) ・学級園での栽培・花づくりや、生き物の世話 ・教室や校舎、校地の環境整備(古いとは言われても、汚いとは言わせない。)